

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
■学力検査、面接：3/8(火)	2/15(月) ～17(水) の正午まで	3/16(水)	中3の12月末までの5教科の5段階評価 +実技4教科の5段階評価の2倍 ($5 \times 5 + 4 \times 5 \times 2 = 65$ 点)

教育のプロ
トライさん



傾向

2013年度の変更によって、後期選抜が廃止。受験機会は前期選抜と一般選抜の2回になった。

前期選抜：合格者は定員の10%～30%で、3教科(国・数・英)の学力検査または口頭試問、面接、内申書と志願理由書で判定される。

一般選抜：5教科(国・数・英・理・社)の学力試験、面接、内申書の内容で、合否が判断される。

二次募集：一般選抜終了時点で募集定員に満たない学校は、二次募集を行うが、秋田市内の全日制高校は、毎年高倍率のため、一般選抜で募集定員に達する可能性が高く、二次募集を行わないと考えられる。

2012年度から試験時間が各教科5分長くなり、基礎的な知識及び技能に加えて、思考力・判断力・表現力がさらに問われる出題内容となっている。

科目別対策

英 語

大問5問で構成。大問3から5までの長文読解・英作文で59点の配点というように、長文読解と英作文の比重が大きい。資料読み取り問題や説明文の読解で、日本語で説明する問題が出題されるなど、総合的な英語力が要求される。実際に20～30語でメールの返信文を作る英作問題が出題された。英作文では演習を重ね、様々なパターンに慣れておく必要がある。

数 学

大問5問で構成。ただし、大問5では、2問のうち1問を選択する形式。大問1の小問集合で32点の配点があるため、基礎問題の計算対策は欠かせない。速く正確に解けるよう練習しましょう。答えに至る過程や考え方を書く記述問題が多いのが特徴。例年出題される関数・平面図形・数と式・確率は十分対策しよう。過去問を用いて、記述式の問題にも慣れておくこと。

国 語

聞き取り、漢字・国語知識・文法、古文、小説、説明的文章の大問5問で構成。古文と小説では、記述問題も出題されている。説明的文章では、250字程度の作文が出題される。これは毎年出題され、配点も高めなので専用の対策が重要。知識が出題される大問2を素早く解き、文章読解の大問3以降に、時間をかけられるようにすることが高得点のポイントである。

理 科

大問5問で構成。2015年度は物理・化学・生物・地学の4分野のうち、2分野の組み合わせの融合問題が出題された。各分野とも難問は出題されないため、まずは問題集を使って、それぞれの分野の基礎力をつけておこう。実験・観察の結果から考察する記述問題が多いので、語句の暗記だけではなく、原因や背景を考える勉強を意識して取り組もう。

社 会

2015年度に大問数が5問から4問へと減少した。分野ごとの配点は、地理が34点、歴史が37点、公民が29点とどの分野もバランス良く出題されている。分野に偏らず、バランスよく対策する必要がある。資料を読み取って記述する問題や語句を指定される記述する問題で得点できるかがポイント。資料を正確に読み取る練習や、文章を簡潔にまとめる練習を積み、記述問題の対策をしておこう。